

2021-22 年度 RI テーマ：奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
ガバナー方針：「チェンジローター 新時代への成長に！」— コロナゼロ・カーボンゼロ支援 —
クラブ方針：「楽しく、優雅なローター活動を」～ Enjoy & Grace Under Pressure ～



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

名古屋空港ロータリークラブ

名古屋市中村区名駅 3-11-13 レジデンス鈴木 1101
【TEL】 052-446-6811 【FAX】 052-446-6812
E-Mail: rongoapt@mta.biglobe.ne.jp
会長/ 田邊 雅彦
幹事/ 川口 直也
公共イメージ向上委員長/ 杉本 敦永
例会日/毎週月曜日 12:30～13:30
例会場/名古屋マリオットアソシアホテル



第 2075 例会

2021 年 11 月 29 日 (月) 第 14 回

- 点 鐘 会長 田邊 雅彦 君
- 斉 唱 「我らの生業」
- 例会行事 R 財団月間卓話 地区資金推進委員
安江 寛二 君
「ロータリー財団の役割と
エンド・ポリオ」
- ゲスト 米山奨学生 張 申童さん
- 司 会 串田 正克 SAA 委員

会長挨拶

名古屋空港ロータリークラブ会長 田邊 雅彦君



会員の皆さま、こんにちは。

本日は山内会長エレクトと入谷副幹事が同時刻に開催中の「クラブ活性化セミナー」の方に出席参加していただいております。

さて、早いもので 11 月も終わろうとしています。すっかり冬空となり一段と寒さを増してきました。昨日は名古屋でも初霜、初氷が観察されたそうです。新型コロナウイルスもここしばらくは落ち着いた感がありましたが、先週、愛知県内で十数名のクラスターが発生

したと聞きました。また南アフリカを中心にオミクロン株という強力な変異種が発見され、欧州を中心に広がりをみせています。いずれ国内にも入ってくると思われませんが、第 6 波が現実味を帯びてきているようで心配しています。

さて 11 月 19 日(金)に 2021-22 年度のクラブ米山奨学委員長会議・第 25 回米山奨学生・愛知学友会総会がありました。

本日お越しになられている張申童さんも第 2 部からご参加いただきました。

第 1 部のクラブ米山奨学委員長会議では各名ガバナーの挨拶の後、米山奨学会の各副委員長による米山奨学会の現状と地区委員会の役割の説明、奨学生の選考と奨学制度、世話クラブとカウンセラー制度、そして寄付金と表彰制度についての説明がありました。

名古屋空港ロータリークラブでは 10 月 25 日の例会において地区米山記念奨学委員の小川剛士君をお招きして卓話をしていただきましたので、予習済みという感じでわかりやすかったです。

第 1 部の会議では特別基調講演として 2020-22 年度よねやま親善大使である

李昱昊(リ・イッコウ)さんが卓話をされました。

彼は 2016 年 4 月～2017 年 3 月の間、米山奨学生として慶應義塾大学大学院で学び、中国で弁護士資格を、日本では行政書士の資格を取得し、現在は東京都内の法律事務所で外国人弁護士として国際業務を担当されているそうです。

そのかわら、日中交流団体の代表として若者の交流促進にも尽力しながら奉仕活動を行っており、その報告をされました。

引き続き、第 2 部では第 25 回米山奨学生 愛知学友総会が開催されました。

地区米山奨学会の大橋委員長の挨拶に続いて、愛知米山学友会の会長リン・チョンさんが挨拶をされたのですが、彼女のスピーチが 30 分ほど続き、総会の予定時間を大幅に過ぎてしまい、スタッフたちがおろおろしていたのが印象深かったです。

本日は、ロータリー財団 地区資金推進委員会に出向さ

れている安江寛二君による卓話がございます。安江君よろしくお願ひします。
 それでは本日もよろしくお願ひ申し上げます。

委員会報告

●出席報告 (内海 辰巳副委員長)

本日の例会					
会員数		47	出席率		79.07%
出席者	出席義務者	18	欠席者	出席義務者	9
	出席免除者	16		出席免除者	4
	出席者計	34		欠席者計	13

●ニコニコボックス報告 (稲吉 将秀 副委員長)

張 申童さん、ようこそおいで下さいました。
 R財団寄付表彰の皆様おめでとうございます。
 安江 寛二君、卓話お願ひします。

田邊 雅彦 君

安江君 卓話宜しくお願ひします。

川口 直也 君

今日も元気で。

山田 幹雄 君

何年ぶりかで、ゴルフ部会のゴルフで優勝しました。

原田 好展 君

本日、地区財団委員として卓話させて頂きます。
 どうぞ宜しくお願ひします。

安江 寛二 君

安江君の卓話に期待しています。

金井 和治 君

安江君、卓話楽しみにしています。

稲熊 正徳 君

安江君の卓話を応援してます。

串田 正克 君

安江君の卓話、楽しみです。

稲吉 将秀 君

今日も元気で！

照井 通夫 君	内海 辰巳 君	鈴木 恵一 君
大野 和宏 君	堀場 竜司 君	石川 良治 君
國田武二郎 君	三治 明 君	武田 英昭 君
伊藤 康司 君	波多野 真 君	阿萬 裕子 君
山北 秀和 君	安川 正勝 君	北園 守生 君
高山 光雄 君	中島 俊朗 君	川瀬 公 君
ブリヤンタ 君	真城 壮司 君	

本日の協力	29名	51,000円
本年度の協力累計		618,000円

R財団寄付

マルチプル・ポール・ハリスフェロー
 ピンバッジと表彰状が贈呈されました。



マルチプル・ポール・ハリスフェロー③
 柴田 弘 君



マルチプル・ポール・ハリスフェロー③
 石川 良治 君



マルチプル・ポール・ハリスフェロー②
 波多野勝美 君



マルチプル・ポール・ハリスフェロー②
 安川 正勝 君



マルチプル・ポール・ハリスフェロー
伊藤 康司 君

卓話

R 財団月間卓話
「ロータリー財団の役割とエンド・ポリオ」



地区資金推進委員 安江 寛二 君

こんにちは。地区 R 財団委員会、資金推進委員会の安江です。本日は財団月間の卓話でお時間頂きました。よろしくお願いします。

1900年代初頭のシカゴ市内の写真です。つまり、ロータリーが生まれた頃のシカゴの様子です。多くの人や車で活気にあふれています。

(シカゴ市内の写真)

財団副委員長の福田さんが30年ほど前にしばらくシカゴに住んでいたそうで、その時に現地のロータリアンから聞かれたお話を、少しご紹介したいと思います。ロータリーが生まれた頃、つまり1900年前後のシカゴのお話です。

シカゴは、古くから五大湖からミシシッピ川につながる水運の拠点として発展してきていましたが、1890年代に入ると、大陸横断鉄道の開通によってさらに急速に発展していきました。

同時に多くの人々がシカゴに移り住んできたのですが、当時のシカゴの人口の約8割が外国からの移民だったそうです。

西へ南へ一獲千金を目指す人々が入り乱れて、商業道徳が乱れていきます。いわゆる「正直者が損をする」よう

な、金儲け第一主義の精神がはびこっていました。そして間もなく、1920年代からは、禁酒法の影響などで、アル・カポネに代表される、いわゆるギャングが暗躍する街となっていきます。

90年代の初めでさえも、シカゴのダウンタウンの南半分はまだ治安が悪くて、そこら中に子供の「当たり屋」がいたそうです。

右から左から複数の子供たちがヒョイヒョイと飛び出してきて結構怖かったそうです。だいたい10才前後の子供たちで、やはり貧しい黒人の子供たちが多かったようです。とにかく車を停車させないように、半分目をつぶってアクセルを踏んだ記憶があるそうです。止まってしまうと、一気に囲まれてしまって、どうにもこうにも、車を発進できなくなってしまい、そして場合によっては大人たちが車に寄ってきて、怖いことになってしまうようです。

ちなみにポール・ハリスなど4人で始まったロータリークラブ発祥のビルはこのあたりだそうです。どちらかというダウンタウンの北側になります。

さて、そのような混とんとした社会情勢の中で、ビジネスマンにとっては「信じられる仲間」「信じられる取引相手」が必要になってきます。

そこで信じられる仲間、信じられる取引相手たちと「仲間内のグループ」と言いますか、「互助会的な組織」がつくられていくこととなります。

ポール・ハリスの呼びかけで、「仲間内の集まり」として始まったロータリークラブもその中の一つでした。

たくさんあった互助会的な組織の中で、ロータリーが生き残り、しかも発展したのでしょうか？

それは、一言で言えば、「社会との接点」を持ったからです。英語では Service と表現していますが、日本語ではやや硬い「奉仕」と訳されています。自らほうきを持って行う道路の清掃活動などをイメージしてしまいがちですが、私たちの奉仕の本質は少し違います。

我々の奉仕は自分たちの持つ専門的知識や経験、幅広い人脈などを活用してより良い社会作りに役立つことです。

ロータリー発足当時の逸話をご紹介します。

ロータリーが発足して約1年後の1906年4月に、ポール・ハリスは特許弁理士ドナルド・カーターに入会を勧めました。しかし以外にもカーターは、入会の誘いを断わったそうです。

『職業を持って社会で生活している以上、職業を通じて社会に貢献することが自分が存在する証になるのであって、自分たちだけの利益にこだわって、社会的に何もしていない団体に将来性も魅力もない』と言って勧誘を断わったそうです。

しかし、ポールは落胆しませんでした。逆に、以前から会員間の互惠と親睦のみに終始することに限界を感じていたポールは、このことをきっかけに定款の改正に踏み切って、再度クラブへの入会を促しました。

すなわち、シカゴ・ロータリークラブの定款に第3条を

加えたのです。

「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」…というものです。

この第3条については、『まったく利己的な組織は持続性がない。もしも我々がロータリークラブとして生き残り、発展することを望むならば、我々はある種の市民に対する奉仕をしなければならない。この定款の改正は、我々の市民に対する奉仕を含めるように、シカゴ・ロータリークラブの綱領の拡大を目的としたもの』と語られています。

1909年に市役所と公立図書館の横に設置された2つの公衆トイレです。

「より良い社会のため」を目的とするロータリーの活動、いわゆる奉仕活動のスタートであり、ロータリーの「社会との接点」との始まりです。

サービス、つまり奉仕を通して社会との接点を重視してきたロータリーは、その後、社会情勢の変遷を生き残り、さらに大きく拡大、発展してきました。

一方、組織内の相互扶助、互恵関係のみを重視したグループはその後の社会情勢の変化の中で次第に衰退、消滅していったのです。

そして、そのロータリーの奉仕活動を資金面で支えてきたのがロータリー財団です。

さらに、ロータリー財団の支援プログラムも100年の歴史の中でいろいろと工夫されてきました。

その一つが、13-14年度にスタートした「未来の夢計画」です。「未来の夢計画」の特徴を一言で言えば、奉仕プロジェクトが「ロータリー財団本部主導」から「ロータリアン主導」に変わった点です。

つまり、ロータリアンが自ら事業を計画し、また自らの事業に寄付金を使えるようになったのです。

いわゆる地区補助金、グローバル補助金と呼ばれているものです。

より多くのロータリアンが奉仕事業に参加できるよう意図されたものです。

現在、地区では年次基金に一人あたり150ドル、ポリプラス基金に30ドルを目標として呼び掛けています。

またこれは、日本全体共通の目標でもあります。

ちなみに、こちら名古屋空港ロータリークラブさんでは昨年度はお一人当たり、年次基金に185.65ドルポリオプラス基金には35.02ドルのご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございます。

つい2年ほど前までは日本はアメリカに次いで2番目だったのですが、昨年は韓国、インドに抜かれて4位となりました。日本は一人あたり197ドルとなっています。一方、韓国は日本の2倍弱の378ドル、台湾に至っては日本の2.2倍強の436ドルとなっていますので、1人当たりの寄付金では、アジアの中でも日本は韓国、台湾に大きく離されています。

これは、寄付金がどのように使われたかを示すグラフで

す。19-20年度のもので、総額3億6,200万ドルですから日本円で約400億円が支出されています。このグラフの一番のポイントは皆様のご寄付のうち、91%がプログラム補助金とプログラム運営費に使われているということです。

つまり91%が奉仕事業関連に使われています。奉仕事業に直接関係しない、その他の9%のうち、5%が寄付推進費用、4%が一般管理費となっています。そのうち、全体の42%がポリオ根絶事業に使われ、次いでグローバル補助金事業に26.5%、地区補助金事業に9.4%が使われています。

次はエンド・ポリオについてお話しします。

実は、ロータリーのポリオ根絶活動は日本と非常に縁が深いのです。これは1978年に東京で開催された国際大会の写真です。4万人の登録者数で、大いに賑わったそうです。

そして、この東京での国際大会で当時のクレム・レヌーフ国際ロータリー会長が健康の向上、飢餓の撲滅、人と社会の発展を促進するための新しい補助金プログラム「3Hプログラム」を発表しました。

この3Hプログラムによる補助金事業第1号が、1979年にフィリピンで行われたポリオワクチンの一斉投与です。600万人の子供たちに投与されたのですが、その効果が大きいと評価され、1985年の「ロータリーの最優先プログラム」に採択されるに至りました。

その後、1988年にWHOやユニセフなどと共に「世界ポリオ根絶推進活動」(GPEI)がスタートしたのです。当時、世界中で約30万人の子供がポリオを発症していました。当時はポリオ根絶というのは「夢のまた夢」という感じで、会員たちの中にも現実感はあまり無かったようです。

しかし、多くの人々の努力下、ポリオの発症国は着実に減少を続け、昨年はナイジェリアで根絶宣言が出されて、アフリカ全土でポリオが消滅しました。

今はパキスタンとアフガニスタンを残すのみとなっています。しかも、皮肉にも新型コロナ対策が徹底したおかげでしょうか、今年の発症はそれぞれ1例にとどまっています。本当に「あと少し」のところまで来ています。

ここ数年、パキスタンとアフガニスタンの国境沿いが発症源でした。山岳に住むいくつかの部族は、国境とは無関係に2つの国を往来していることがネックでした。つまり、ワクチン投与から漏れてしまっていたんですね。

皆様ご承知の通り、一人でもポリオ発症者がいれば、日本を含め、世界中の子供にワクチンを打たなければなりません。ですからアフガニスタンやパキスタンだけの話ではないのです。

ポリオが根絶されれば、世界中でワクチンを投与あるいは接種しなくてもよくなります。経済的にも大きな効果があります。

ポリオ根絶まで「あと少し」です。

どうぞ引き続きご協力をお願い致します。